

支援機器等教材活用実践事例フォーマット

実践年度・タイトル		令和(元)年度 ICT機器を活用した、伝える経験を積み重ねるための実践～朝の会を通して～
授業について	教科名等	<input type="checkbox"/> 国語 <input type="checkbox"/> 社会 <input type="checkbox"/> 算数/数学 <input type="checkbox"/> 理科 <input type="checkbox"/> 生活 <input type="checkbox"/> 音楽 <input type="checkbox"/> 図画工作/美術 <input type="checkbox"/> 家庭/技術・家庭 <input type="checkbox"/> 体育/保健体育 <input type="checkbox"/> 特別の教科 道徳 <input type="checkbox"/> 外国語/外国語活動 <input type="checkbox"/> 総合的な学習の時間 <input type="checkbox"/> 特別活動 <input type="checkbox"/> 自立活動 <input checked="" type="checkbox"/> 各教科等を合わせた指導 <input type="checkbox"/> その他の教科 <input type="checkbox"/> その他()
	単元・題材名	日常生活の指導・朝の会
	授業の目標	iPodを活用して、一人で朝の会の進行をする。
	学力の3要素	<input checked="" type="checkbox"/> 「知識及び技能」 <input type="checkbox"/> 「思考力・判断力・表現力等」 <input type="checkbox"/> 「主体的に学習に取り組む態度」
学習集団と子供の実態	学校・学部・学年・人数	<input type="checkbox"/> 通常の学級 <input type="checkbox"/> 通級による指導 <input type="checkbox"/> 特別支援学級 <input checked="" type="checkbox"/> 特別支援学校 <input type="checkbox"/> 就学前 <input type="checkbox"/> 小学生 <input checked="" type="checkbox"/> 中学生 <input type="checkbox"/> 高校生以降 <input type="checkbox"/> 特定されない (3)年 (6)人
	対象の障害	<input type="checkbox"/> 視覚障害 <input type="checkbox"/> 聴覚障害 <input checked="" type="checkbox"/> 知的障害 <input type="checkbox"/> 肢体不自由 <input type="checkbox"/> 病弱・身体虚弱 <input type="checkbox"/> 言語障害 <input type="checkbox"/> 自閉症 <input type="checkbox"/> 情緒障害 <input type="checkbox"/> LD(学習障害) <input type="checkbox"/> ADHD(注意欠陥/多動性障害) <input type="checkbox"/> その他
	子供の困難さ	<input type="checkbox"/> 見ること <input type="checkbox"/> 聞くこと <input checked="" type="checkbox"/> 話すこと <input type="checkbox"/> 読むこと <input type="checkbox"/> 書くこと <input type="checkbox"/> 動くこと <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーションをすること <input checked="" type="checkbox"/> 気持ちを表現すること <input type="checkbox"/> 落ち着くこと・集中すること <input type="checkbox"/> 概念(時間、大きさ等)を理解すること <input type="checkbox"/> 学習(計算、推論等)すること <input type="checkbox"/> その他 1～2語文で話すことが多く、発語が不明瞭な時もある。言語の理解はあるが、言語として表出するには教員からの支援が必要な場面が多かった。読める文字も少なく、現在学習中である。朝の会では、教員からの言語的支援を待ち、それを手がかりに進めることがほとんどであった。
支援機器等教材の活用について	活用の意図	Aコミュニケーション支援(<input type="checkbox"/> A1意思伝達支援 <input type="checkbox"/> A2遠隔コミュニケーション支援) B活動支援(<input checked="" type="checkbox"/> B1情報入手支援 <input type="checkbox"/> B2機器操作支援 <input type="checkbox"/> B3時間支援) C学習支援(<input type="checkbox"/> C1教科学習支援 <input type="checkbox"/> C2認知発達支援 <input type="checkbox"/> C3社会生活支援) D実態把握支援(<input type="checkbox"/> D1実態把握支援) 文字を読むのが難しいため、朝の会で日課を読み上げている箇所と、指している箇所がずれてしまうことがあった。そのため、時間割を文字とシンボルで示し、アプリケーション内でも同じシンボルを用いた。発声された言葉が聞き取りにくいことがあったり、言葉が出ずに固まってしまうことがあるので、シンボルで示した項目をタップすると音声が出るように設定し、機器から出た音声を自分で復唱する形で朝の会を進行できるようにした。
	使用した支援機器等教材の名称と画像	①iPod touch(Apple Inc.)  iPod touch ②DropTalk(HMDT Co.Ltd.)  Drop Talk
授業展開	授業展開・支援の手立て	朝の会では、支援機器がなくても進行できる場面は支援機器を使わずに実施した(始めの挨拶、出席確認、終わりの挨拶)。日付や天気、予定の確認においては、アプリ内のシンボルをタッチすると音声の流れ、その音声を聞いて復唱する形で朝の会を進行できるようにした。最初はシンボルにタッチする順番等、戸惑う場面も見られたが繰り返し行うことで、自ら場面を使い分けて使用できるようになってきている。  iPodとのマッチングが入ることで、朝の会で読み上げている箇所と発声している箇所があってきた。  自分でiPodを操作し、一人で進行できる部分が増えてきた。
効果・評価	子供の様子や変容および授業の評価	対象生徒は言語の理解はあるが、言語として表出するには教員の支援等を必要とすることが多かった。今回はiPodとDropTalkのアプリケーションを活用することで、教員の支援がなくても自分で音声を聞き、発声することでクラスの一人で仲間に伝える経験ができた。その結果、朝の会中に教員を見ることが減り、自信をもって朝の会の司会に取り組むことができるようになってきたと考えられる。